

教室内集団による垂直効力に関する事実の形成

松原 大輔

MATSUBARA daisuke

大妻中野中学校・高等学校

キーワード：教室内集団，社会的構成論，会話分析，社会的事実，社会的規範

1. 目的

本研究は教室内集団の社会的な相互作用が個々の生徒の学習にどのような影響を及ぼすのかを，実際の授業を観察することを通して調査・分析した。

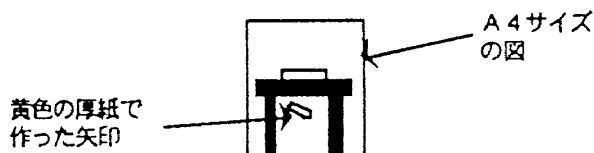
多くの人は科学的な知識を明白な「事実」である，と考えている。また，多くの理科教師はそのような事実の多くは科学的な体系に即して理解すべきである，という考えを持っている。しかし，「地球は宇宙という空間に浮かんでいる球体で，太陽の周りを周回している」という科学的な事実を科学的な体系から理解している人は少ない。にもかかわらず，大多数の人々はこの知識を「事実」として強固に受けとめている。このように社会において「事実」として認められている知識はどのようにして取得され，また保持されているのであろうか。これが本研究の問題意識である。

2. 方法

上記の目的を受け，本研究では中学一年次の垂直抗力の授業を観察した。授業の観察においてはビデオテープレコーダーとテープレコーダーを用いて各生徒の授業中の行為と発話を記録し，発話分析を主として科学的事実の形成過程を調査した。ここで，ビデオテープレコーダーとテープレコーダーを使用した目的は授業における教室内集団の相互作用を観察する点にある。また，ビデオテープレコーダーに関しては教室内集団全体の動きを捉える目的をも果たす。

各集団内での発話を活発にする理由と，生徒の考えの変化を視覚的に表現させるために力を矢印で表示したラベルと机の上に

のった本の図（図参照）を各グループに配ることで，集団内の力に関する考え方の変化の過程を記録した。本調査では記録された生徒の言葉や言説がいわゆる本音であるかどうかに関しては問題視していない。それよりもむしろその表現が集団に与える影響を問題にした。ある生徒の言説が建て前であろうと本音であろうと，その言説が集団にどう受け取られ，社会的にどのような影響を及ぼしたのかを問題としたのである。



図：生徒に配布した力のベクトル表示用の用紙

3. 結果

生徒たちの生の会話は実に多様な社会的な影響を表出させた。以下の発話はその一例である。

A 2：押してるじゃいけないの？

A 1：上（下向きの矢印）だけで落ちてつぶれちゃうんじゃないの

A 2：おちてつぶれちゃう？

A 3：それがこれのまた面白いところ

A 2：それはちょっと違うと思う

A 4：そしたら一番（の意見）になっちゃうじゃん

A 4 は A 2 の意見が他のグループの意見であることから自らの属するグループとしては反規範的な行為になると考え A 2 の意見を否定したのである（会話文の※）。

このように自然現象の解釈が社会的な影響によっても左右される場面は本調査では多々見られた。本研究は授業で使われている科学的な論理と実証といった方法にのみでなく教室内集団の社会的な影響によっても自然現象の解釈を変容させ，その集団で機能する「事実」を形成したのである。